

## 会長には綿内剛美さんを再選 新体制で若穂の住民自治担う

坂口副会長はじめ退任された役員の皆さん、ありがとうございました。

### 総会で事業計画・予算・役員体制を決定 課題も山積

4月24日、多くの代議員や来賓参加を得て平成27年度の定期総会を開催。若穂自治協は設立以来8年目を迎えました。事務・事業は年々増え続け、路線バス問題や人口減少などの地域課題も山積。総会冒頭、綿内会長は若穂の現在と将来に警鐘を鳴らし、奮起を訴えました。(裏面に全文)



### 若穂地区住民自治協議会の平成27年度役員 (敬称略)

会長	綿内剛美	区長会(再)
副会長	松沢壽	区長会(再)
副会長	中村謙一	区長会(新)
副会長	北島和子	更生保護女性会(新)
副会長(兼会計)	藤木協子	食生活改善推進協(新)
事務局次長	刈間匠一	(再)
事務局次長	檜本茂治	(再)
事務局次長	青木保	(再)
事務局次長	小林隆夫	(再)
事務局次長	山寄今朝寛	(再)
事務局次長	橋本淳	(再)
事務局次長	伊藤公正	(新)
区長会長	松沢壽	(新)
地域開発推進委員長	宮沢登	(再)
福祉保健委員長	玉川礼子	(再)
環境美化委員長	田牧牧夫	(新)
社会福祉協議会長	滝沢勝雄	(再)
人権同和教育促進協議会長	穂谷正治	(再)
地域公民館連絡協議会長	丸山勝久	(新)
子育て青少年育成協議会長	塚田敏雄	(新)
監事	坂口宣子	白バラ会(新)
監事	北村久仁子	若穂ボランティアグループ(新)
監事	羽藤公夫	公募(再)
監事	倉島晶彦	公募(再)

### 【各機関の副委員長・副協議会長】

区長会	綿内剛美(再)
	中村謙一(新)
地域開発推進委員会	長田健(再)
	上田聖二(再)
環境美化委員会	山崎明洋(新)
	小林正重(新)
社会福祉協議会	松沢壽(再)
	中島裕二(再)
福祉保健委員会	義家時江(再)
	星沢やよ江(再)
地域公民館連絡協議会	中村光男(新)
	霜鳥誠二(新)
人権同和教育推進協議会	滝沢勝雄(再)
	松沢壽(再)
	山崎富夫(再)
	小野田千晴(新)
子育て青少年育成協議会	高野勉(新)
	湯本正光(新)
	山本忠宏(再)
	北野高司(新)



【事務局職員】 小林妙子・小山仁子・酒井計治(やまごと支援員)「ボランティア室」 神田節子・宮尾久江

—————よろしくお願ひします。

## 「若穂消滅・・・？」

～ 若穂は一つ、原点にもどろう！ ～

綿内会長の総会あいさつ要旨。ショッキングなタイトルですが、若穂の現状と将来への重い提起です。

つい最近「地方消滅論」という報告書を読んで私は強い危機感を覚えました。それは、このままの社会形態でいくと、日本中で約900、長野県では34の自治体が消滅する。つまり消えて無くなってしまふというものでした。若穂は独立した一つの自治体ではありませんが、当てはまる部分がたくさんあると感じたのです。その最たるものが人口減少と少子高齢化。この4月の若穂の人口は12,697人、平成22年は13,160人だったので5年間で463人も減っている訳です。その上、65歳以上の高齢者は毎年増え続けて現在3,776人。反面、生まれてくる赤ちゃんの数は年々減り続け、昨年度はたったの78人。これは若穂の3小学校合わせてやっとこ3クラスしかできない人数で、今まさに小学校消滅の危機に直面しているのです。屋代線が消滅した、保科温泉線をはじめ若穂を走る公共交通すべてが廃線の危うきにある、その上、地域の宝である子どもたちが通う地元の保育園や小学校までも無くしてしまった若穂の姿とは・・・、想像だにしたくない思いに駆られます。

若穂を、自然的な好条件のそろった本当に良い所だと感じている住民はたくさんいると思います。それなのになぜ「地域消滅」の危うきにあるのでしょうか？さまざまな事情が考えられますが、私は、住民の「危機感の薄さ」「なりゆきまかせ」「無関心」にもあると思います。例えば、バス廃線方針がわかかっていても乗って残そうという意識も行為も見えない。地域の将来を託す自分たちの代表を選ぶ選挙などでも、投票に行く人が少ない。地域を盛り上げ発展させるための活動を立ち上げる人はあっても、参加者が少なく、それに対する中傷さえ起こる。これではだめだと思えます。

地域をどうつくっていくかは、住民みんなが考え、議論を重ね、課題を見出し、将来像を描き、それに向かって自分たちでできることを実践し、行政にも吸い上げてもらうボトムアップを基本としていくことが肝要だと思います。そして若穂の大きな魅力である自然と農業を軸に据え、多様で柔軟な暮らし方を中心に置いた、故郷に住み続けることができる地域、他地区から移住してきていただける地域づくり、そして住民同士の信頼関係の強い、暮らしと子育て(教育)に安心感のあるまちづくりを目指して結束していかなければ、生き残っていけないのではと考えます。

若穂は、昭和37年、若々しい息吹に燃え、伸び行く未来に希望を託して旧3村住民の総意で合併し名づけられた町名です。若穂町章の「わ」は融和、「か」は力と勢い、「ほ」は焰のごとき輝き成長する姿を現しているのです。皆さん、もう一度若穂の原点にもどりましょう。そして誰にも誇れる若穂をつくり、伝えていきましょう。

今年度もご協力・ご支援よろしく申し上げます。(27年度若穂地区住民自治協議会長 綿内剛美)

総会で決定された平成27年度の予算(収入・支出)は以下の通りです。(次号に続く)

【一般会計】 自治協の基本会計です。

収入	23,069,000 円	市からの補助金、区を通じた世帯からの負担金(1600円/戸)が主
支出	23,069,000 円	8機関の事業費、団体補助金、事務局費(事業費・人件費等)など

◆対前年度当初予算比較で128,000円の増

【やまざと支援金特別会計】 市の中山間地補助金(保科と綿内山新田区対象)に対応する会計です。

収入	1,800,200 円	市からの「やまざと支援交付金」
支出	1,800,200 円	事業活動への謝金や活性化推進員人件費など

◆対前年度当初予算比較で増減なし

《後記》 若穂の人口はこの5年間で463人も減り、昨年度の出生はたったの78人。「3小学校・1中学校」の基本的な構図さえも危ぶまれてくる？少子高齢化は避けがたい日本の現実としても、ことは深刻。が、ポジティブにみれば親子が若穂路を走る「とびっくラン」も、活発なPTA活動も、2台の福祉自動車の運行も、穏やかな気風も若穂の特性。32地区を擁する巨大な行政機構：長野市の中で、キラリと光り輝く、住みやすい若穂を創りたいですね。